

たまつくり 玉作2遺跡

遺跡番号 平成16年度登録
所在地 鶴岡市大字中清水字玉作
北緯・東経 38度42分58秒・139度45分30秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因 日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積 3,700㎡
現地調査 平成21年5月11日～8月7日
調査担当者 福岡和彦（調査主任）・渡辺和行
調査協力 鶴岡市教育委員会、山形県教育庁庄内教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 古墳・平安時代
遺構 掘立柱建物跡、土坑、柱穴、湿地跡
遺物 土師器・須恵器・木製品・石製品・陶器・金属製品・銭貨
（文化財認定箱数：10箱）



調査の概要

玉作2遺跡は、山形県教育委員会の試掘調査の結果、平成16年度に新規登録された遺跡である。遺跡の一部が日本海沿岸東北自動車道の本線部分にかかることから、平成17年度に玉作2遺跡の1次調査が実施された。

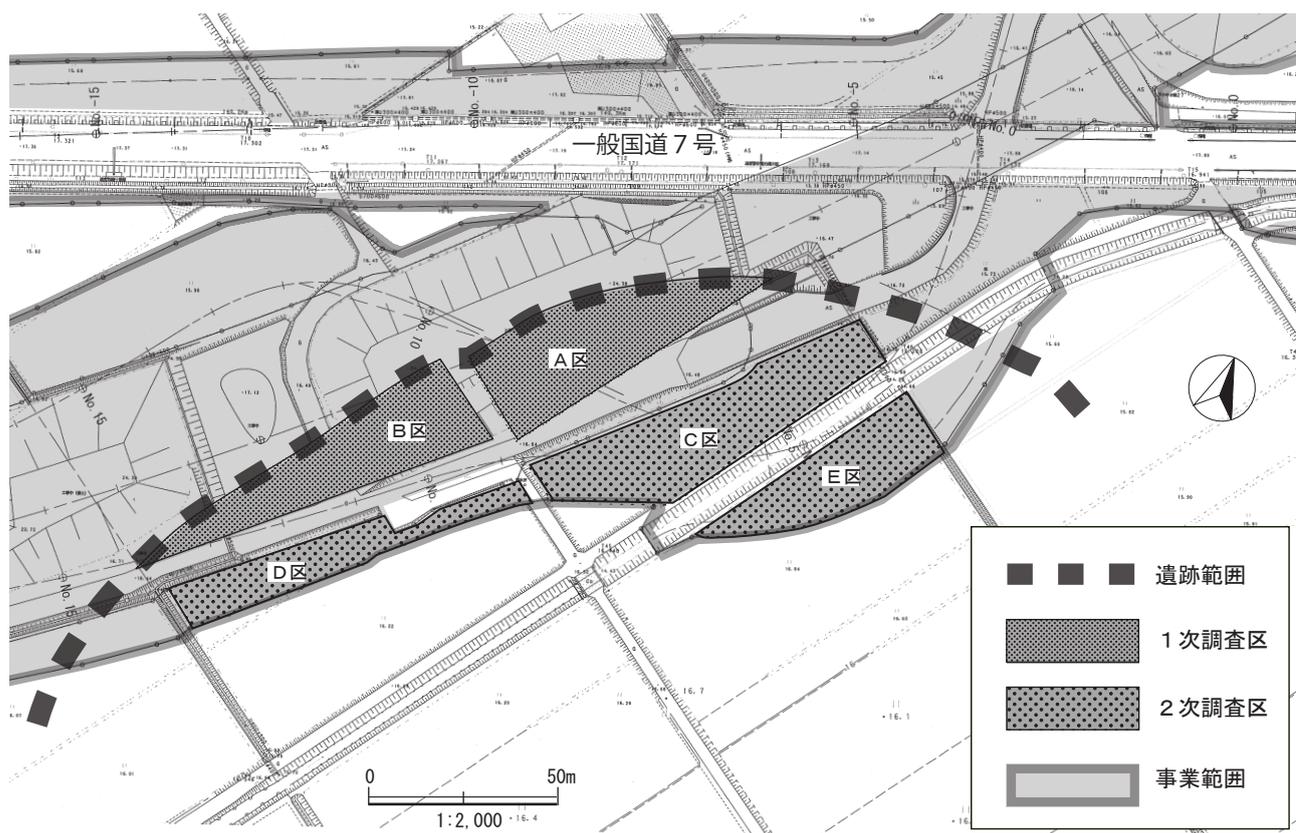
そして今回、地域活性化インターとして中清水地区に建設されることになった鶴岡西インターチェンジ(仮称)が玉作2遺跡の遺跡範囲にかかることがわかった。財団法人山形県埋蔵文化財センターは、国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所からの委託を受け、路線区内にかかる3,700㎡について発掘調査を実施した。

玉作2遺跡は鶴岡市の南西部に位置し、JR羽前水沢駅から東へ約2.5kmの鶴岡市大字中清水字玉作に所在する。周辺の地目は水田で、一部は転用田となり畑作としてこの地方特産の「だだちゃ豆」などが栽培されている。遺跡は大山川やその支流を氾濫原とした微高地上にあり、標高は15～16mを測る。

遺構と遺物

検出した遺構には、掘立柱建物跡、土坑、柱穴、溝跡、湿地跡などがある。掘立柱建物跡はD区北側で1棟検出され、SP6・8・10で構成される。柱間距離が縦横それぞれ2mを測る。農道側に延びていたものと推定されるが、西側が削平されているため、その規模はわからない。同じD区からは、平安時代の溝跡と考えられるSD12も検出されている。C区とE区からは、大山川かその支流が氾濫した後にできたと考えられる湿地跡SG86が検出されている。

出土した遺物は整理箱にして10箱である。古墳時代と平安時代の土師器と須恵器が中心で、ほとんどが破片資料である。中近世の陶器や金属製品、木製品や銭貨なども出土している。未製品だが凝灰岩製の勾玉が1点と、勾玉を作る材料となったと考えられる鉄石英も数点出土した。



調査区概要図 (S = 1:2,000)

まとめ

今回の調査では出土した遺物から、この遺跡は古墳時代の前期から中期と、奈良・平安時代にあたる8世紀末から9世紀初めにかけて営まれた集落の一部ではないかと考えられる。

本遺跡が玉作というからには、近くに玉製品を製作するような工房跡があり、周辺の遺跡に供給していたとも考えられる。4年前に行われた玉作1遺跡の発掘調査では、玉製品の製作工程である荒割段階の碧玉が十数点と鉄石英などが出土した。しかし完成品や工房跡などは検出されなかった。今回の調査でも、勾玉の未製品と思われる石製品が1点と、玉製品の材料となる鉄石英も何点か出土したものの、玉製品を製作したような工房跡は検出されなかった。集落の中心や工房跡などは、遺構の多かったD区の東側か南側にあったのではないかと考えられる。E区北側の遺構検出面の少し上層から、火山灰と思われる試料が採取することができた。検出面の年代比定の判断材料とするため、テフラ分析も行った。その結果、庄内地方一円で検出されている十和田aではなく、946年頃に噴火した白頭山苦小牧テラフであるという貴重な分析結果を得た。



調査区遠景 (南西から)



C区 SG 86 湿地跡 完掘 (東から)